

健斗する現役

三商大戦に完全優勝を飾る

◎ 現役戦記

9/26	桃山学院大	19-24	負
10/24	立命館大	42-4	勝
10/31	関西学院大	9-13	負
11/7	関西大	46-11	勝
11/14	大阪大	10-23	負
11/28	追手門大	66-9	勝
12/5	甲南大	56-4	勝

< 三商大戦 >

12/8	大阪市大	90-0	勝
12/12	一橋大	92-0	勝

この結果神戸大の完全優勝

◎ 現役ゲームを観戦して

小玉康雄 (昭39)

シーズン前、Bリーグでの優勝を期していたのですが、その可能性は春の成績及びフィフティーンの陣容から充分ありました。残念乍らリーグ戦は期待に反した結果となりましたが、その原因として一部レギュラーの故障によるメンバーの変動も挙げられますが、第一戦の不用意な敗戦（実力は勝っていたが詰めが甘く得点につながらなかった）が尾を引いていることは否めません。誠に残念で、シーズン途中より現役指導を引継いだ私としては来季の課題の一つと受けとめています。と共に現役にとって一番の妙薬はOB諸氏の温い応援です。諸先輩のご観戦をお願い致します。

◎ 凌霜ラガー戦況

小玉康雄 (昭39)

11月21日大阪城Gで凌霜-東レ戦が行なわれました。ご観戦予定の太田・福田・子安・井沢先輩に対して、急遽太田先輩にレフェリー、福田・子安先輩に出場をお願いして尚、OBが7名という貧弱さで完敗。戦績は下記の通りでした。今後招集係も気をつけますが、OB諸氏も奮ってご参加されることを願います。

凌霜 16 (0 - 28) 36 東レ
16 - 8

◎ 総務よりのお知らせ

子安 武 (昭29)

1. 運営委員の異動

クラブチーム及び現役指導担当の松村氏 (昭34 卒仙合放送) 松下氏 (昭39 卒ユニチカ) の両氏が東京へ転勤されましたので、後任を小玉氏 (昭39 東レ) 岡田氏 (昭41 卒自営) 両氏にお願いしました。両氏は既に活動を開始されております。

2. ユニフォーム新調

クラブチーム復活に伴いジャージを新調しました。棉の白地にRの花文字を胸にあしらったものです。ご希望者には実費の半額、1,500円でおわけします。

3. クラブチームの試合出場希望者へ

本年度の試合は2試合だけですが、来年度は多数の試合を予定しております。出場希望の方は下記へご連絡下さい。

連絡先：東レ(株)短繊維販売部 小玉康雄
TEL 06-441-7771

4. 東京大会開催のご案内

11月15日以来二度にわたって下記有志がご会合されご相談の結果、昭和52年2月21日(金)に東京大会を開催されることになりました。詳細は決定次第ご案内申し上げます。

第1回準備会出席者

今津 (昭23) 柏木 (昭26) 河合 (昭28)
河野 (昭28) 西松 (昭31) 山下 (昭33)
松村 (昭34) 沢田 (昭34)

第2回準備会出席者

関寺 (昭3) 今津 (昭23) 柏木 (昭26)
柴田 (昭26) 河合 (昭28) 西松 (昭31)
野川 (昭33) 山下 (昭33) 松村 (昭34)
沢田 (昭34) 松下 (昭39)

◎ 今年の競技規則の改正点

太田 奎 吾 (昭27)

1. 競技規則 (The Laws) 改正の仕組み

イングランド、スコットランド、アイルランド、フランスの5協会に南半球の南ア連邦、オーストラリア、ニュージーランドを加えた八つのラグビー協会代表者によって、インターナショナルボードが構成されている。

毎年南半球のシーズンインの前、3月頃に会議が開かれてその年の“Laws”が決定される。残念乍ら日本ラグビー協会はそのメンバーには入れてもらっていないが、インターナショナルボードの決定通知を受けて、その年の競技規則を決めることになっている。以前はボードの決定通知を直接知る手段がなく、親密な関係にあるニュージーランド協会から間接的に通知を受けていたことを思うと日本協会の国際的地位も格段に認められてきたと言える。

2. 今年の主な改正点

(1) プレーヤーの交替ができる

従来プレーヤーの交替ができるのは、管轄協会のセレクションマッチのほかには、一方がナショナルチームである国際試合と、高校以下等協会が特別に認めた試合だけに限られていたが、今年から国内の全試合についても適用されることになった。負傷した場合、交替人数は2名以内、交替したプレーヤーは再びゲームに参加できないという制限は従来の国際試合と同じである。国内の場合も医務心得者の勧告が必要だが、不在のときはレフリーの判断で決めることになるので、レフリーの役割が重要になる。

(注) 厳密にいうとインターナショナルボードがインターナショナルマッチと称ぶのは上記8ヶ国協会の代表チームのゲームをいう。

(2) レフリーの注意事項の改正

(イ) 地面に倒れた際はじき出されたボールはノックオンではない。

昨年からアクシデンタル・オフサイドでもゲームに影響がない場合は反則にしないことになったが、さらに明らかなノックオン、スローフォワードでない限りゲームを続行することを意図している。

(ロ) 立っているタックルされたプレーヤーはモールにならない限り直ちにボールを離さなければならない。

自由になってボールをプレーしようと努力するのは僅かの時間に限られるが、これを一層明確化したもの。日本のラグビーはモールとラックの定義をもっとはっきりと認識することが必要で、これがいまいなために“おみこし”や“だんど”がやたらに多く、ゲームが途切れて興味を殺いでしまうことが多い。

(3) その他

今年のボードでは、ライン・アウトの終期をより普遍的に判断できるよう試験的に実施することを決めていたが、9月になってまたそれを取止める通知を出すという異例の事態があった。しかしながら本件については常識的な方向へ向いているように思われる。

◎ 会員名簿完成ご報告

高塚 宰 (昭31)

かねてより懸案の凌霜ラグークラブの会員名簿が、皆様方のご協力を得てようやく完成致しました。11月中には会員諸兄のお手許に届いている事と存じます。今回の名簿作成にあたりましては、井沢俊之氏(昭30卒)が、旧名簿の整理から始め編集、印刷、並びに会員諸兄への発送まで全部一手に引受け大変なご尽力を頂きました。ここに厚くお礼申し上げ、感謝の意を表します。また、この名簿作成の費用につきましては、別表収支報告書記載の如く、13社の会員の方々から広告掲載の形でご寄付を願いました。

以上、名簿作成収支報告を兼ねてお礼申し上げます。尚今後は二年毎に発行したく存じますので皆様方のご協力をお願いします。

◎ 会員名簿発行収支報告書

1. 収入の部

寄付 (広告掲載料) 14口	計 <u>220,000</u>
----------------	------------------

2. 支出の部

(1) 印刷費	150,000
(2) 発送費	46,500
(3) 一般会計へ繰入	23,500
	計 <u>220,000</u>

寄付ご協力者名

尚美堂、中田(株)、日本港運(株)、ユニチカ(株)、メネデル化学、(株)永田商店、藤井事務所、(株)ニシムラフオト、誠和商会、イザワ商会、弁天町モータープール、東通商事(株)、宏名産業(株)、本領時計店(順不同 敬称略)

◎昭和51年度 凌霜ラガー会費納入者ご氏名

(51. 11. 19. 現在)

卒業年度	ご氏名	卒業年度	ご氏名
大 12		昭 27	太田、山口、永田、池田、藤井、柚木
大 14	難波、磯林	昭 28	河野、綾、村上、森本、村本、坂口 福田、河合、依藤
大 15	今里、田中	昭 29	山本、西松、子安
昭 2	平野、山根、北村	昭 30	坂本、赤崎、井沢、横田、鎌倉
昭 3	関寺、高原	昭 31	松本、小林、盤井、伊藤、永井、浅野 西松、高塚
昭 4	尾上	昭 32	野間、安中、小川、小出、大音
昭 5	小林、千歳	昭 33	野川、名取、岸原、山下、浜田、竹村
昭 6	西川、菊地	昭 34	松村、戸田、野村、沢田、村尾、塩谷
昭 7		昭 35	多々見、河島
昭 8		昭 36	山口、土居、永田、松下
昭 9	朝井、板野、川又、辻	昭 37	平井、鍵野
昭 10	古立、大谷	昭 38	長谷川、堀本、本領、松村
昭 11	杉山、清水	昭 39	松下、小玉、野村、中重
昭 12	国領、菊谷、田中、甲斐、若林	昭 40	福田
昭 13	小池、南、渡辺、飯島	昭 41	松村、岡田
昭 14		昭 42	佐々木、岩崎
昭 15	田中、沖川	昭 43	中村、葉室、田畑、山岸、矢野、室賀
昭 16	五島、山本、荒二井、伊藤、稲岡、能勢	昭 44	野中、用水原
昭 17	工藤、村上、木水、三宅	昭 45	福原、松本、和田、清水
昭 18	妹尾、阿部	昭 46	小川、鷹尾
昭 19	門田、根来	昭 47	並河
昭 20	中田、金田	昭 48	渡部
昭 21		昭 49	田中、森
昭 22	三宅、森田	昭 50	吉沢、中芝、森田、中野、淵田
昭 23	伊藤、今津、船曳、小林、風早	昭 51	淵上、西川、吉川、中沢、春日
昭 24	羽田、原、伊藤		
昭 25	島村、檜崎、山本、岡田		
昭 26	江藤、柴田、杉浦、柏木		

(以上 164 名)

会費納入ありがとうございます。未納入の方は
右の口座へお振込下さい。 井沢俊之 (昭30)

振込先 住友銀行天満橋支店 普通預金 № 957978
凌霜ラガークラブ (年会費 3,000円)

若林 久行氏 (学部6回 昭和12年卒)

51年9月16日、ご家族と宇奈月温泉へ旅行中、
心臓マヒのため急逝されました。

株式会社不二越勤務ののち、富山市内で駐車場を経営
されており、この四月の総会には激励の便りを寄
せられるなど、凌霜ラガークラブの再出発を楽し
みにしておられました。

高岡高商を経て、神戸商業大学に進まれ、現役
時代はCTBとして活躍されました。小柄ながら
なかなかのファイターで、シュアなプレーには定
評があったといわれます。

自宅は富山市西町9-5

江藤 基雄氏 (学部21回 昭和26年卒)

51年12月11日、胃ガンのため阪大附属病院で逝
去されました。尚美堂専務としてご活躍のかたわ
ら、凌霜ラガークラブの再興に熱心にとり組み
られ、また月例の大阪凌霜午饗会では幹事をつとめ
られるなど、いろいろ同窓の世話をしていた
ておりました。

愛日小学校、北野中学と大阪の名門校を経て海
軍機関学校にすすまれ、戦後神戸商業大学予科に
入学されました。中学時代はハンドボールの選手
として全国優勝をなしとげられましたが、ラグビ
ーとの出会いは予科入学に始まります。丹羽先生
らのご指導により、現役時代は俊足俊敏な右WT
Bとして大活躍されました。

< 思い出のゲーム >

Aブロックでの初勝利 一対 京大戦一

国沢健一 (昭40)

小玉先輩から、会報の原稿を書けとのご命令を受けてから、仕事も手につかず12年前の新聞のスクラップを見ていると「神大、40年ぶり勝つ対京大」とう毎日新聞の見出しが一番に目に入ってきた。あの時の自分を含め現役の気持はどうであったか、というと京大を破ったという勝利感よりも「Aブロックで勝った」という満足感と、忠実にプレーすれば必ずや報われるという自信であったと思われる。

昭和37年諸先輩の積み重ねたご努力と実績により、新設されたBブロックに加入、翌38年Bブロックで優勝、そして丹羽先生やOB諸氏の多大なご尽力により神大ラグビー部は昭和39年入替え戦なしで念願のAブロック入り出来たものであり、この京大戦での勝利は何とも言えなく嬉しいものであった。今でも忘れないが、初戦の関大戦で完膚なきまで打ちのめされ、放心状態になっていた我々のところに関大のキャプテンがやってきて、「こんなことではBに落ちるぞ、頑張ってくれ」と言った。これを聞き我々は少々頭にきながらも、ともかく一生懸命やってAに残ろうと誓い合ったことを。

そして同大には実力で敗けたものの、後半は同大をゴール前に釘付しワントライを奪い、Aブロックでもやれるという何やら自信らしきものも生れはじめた。つづいて関学、甲南戦と連敗はしたもののAのスピードにもすっかり慣れ、チームは上昇ムードで対京大戦を迎えた。

この年の京大は大型FWを擁し、又前年度三位だったこともあり、自信満々で試合に臨んできた。一方我がチームはFWが劣勢ながらタイトを互角に健闘し、決め手のバックスに球を集めることが出来、前半8-8、後半11-0と19-8で快勝しAブロックでの初の一勝を飾った。

その後も粘り強くなった神大は、天理大にはノートライながらも6-3で勝ち、最終戦の立命大にも21-5と完勝できたのである。

4連敗-3連勝と対照的なAブロックでの初シーズンの大きなポイントとなった京大戦は思い出深い試合であった。

最後に京大戦の勝利に湧く我々のロッカーへ試合後訪ね「ほんとうにおめでとう」と私に握手し

てくれた京大キャプテン吉田君の立派なラグー・スピリットに今さらながら感服してこの拙文をおわりたい。

< 西から東から >

卒後43年の今も少年ラグビー団と**共に走る**

川又正三 (昭9)

国領君等の御尽力にて凌霜ラグークラブが再建された事を心から喜ばずには居られない。第二号会報に寄稿せよとの要請に対し、駄文を以て応じ度い。当地小樽市には今は凌霜人は少なく、従って同ラグークラブ支部などは無いが、私個人は久しく遠ざかって居たボールに再び縁が出来た。思うところあって昨春以来小樽少年ラグビー団の坊や達に混って日曜日の二時間、日光に当る事、走る事を心掛け初夏から中秋までの大切なスケジュールの一にして居る。第二年度は主として上半身を鍛え度い。北海道では11月上、中旬でシーズンが終るのが残念である。

運が悪く非力にして神商大第三代目の主将に推された私には苦しかった思い出が先に立って会報を汚す事をのみ怖れるが以下若干の追憶を記して紙面を埋めたい。

当時ラグビー界では名門校であった成蹊高校から単身神戸商大に入学した時点では、一応は学業第一と胸を膨ませて居たが、元町で旧知の先輩川田稔氏(2回生)に声をかけられたが奇縁で再び球を追う羽目になった。然しこの事が神戸の学生生活を充実させてくれた事を思えば事志と異なるとは言え、聊かも悔いる処は無い。一年目はノビノビ新人時代、二年目がポジション転向で辛いハーフ時代、三年目若年と力量不十分のまま主将の大任と部員不足に悩むと言った事で商大を終え、神戸ラグビー倶楽部で三年間、この間に六甲にも行き国領君他多数の六、七回生の知己を得た。

現役中の記憶に残るのは対関西学院、天理外語、京都大学A・B、東京商大戦等、戦蹟不芳と雖もそれぞれスピード感と斗志横溢の好ゲームであったと思う。

第一代主将中山氏、第二代主将牧野氏共に実力風格、社会人に近くいつまでも長い先輩である。旧高商組、外からの高商、高校組、特に学習院・甲南組がそれぞれの時代を引き継ぎ支えて予科へパスを通した事であろう。尽きるところないが以上で筆を擱く事とする。